



Title	こだわりの旅「ヲタクツーリズム」
Author(s)	鷺宮, 三次
Citation	まほら, 57, 60-60
Issue Date	2008-10-01
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/34793
Type	column (author version)
File Information	okamoto-3.pdf



[Instructions for use](#)

「こだわりの旅『ヲタクツーリズム』」

私は大学院で観光の研究をしている学生であり、専門は「ヲタクツーリズム（以下「ヲタツー」）」である。「ヲタツー」とは、「ヲタク」がする旅のことである。「ヲタク」は、ここでは、巷でよく言われる「アニメや漫画、アイドルを愛する人々の総称」ではなく、あることに没頭し、こだわりぬく人々を指す。つまり食べ物ヲタクや絵画ヲタクなどもあり得る。

「ヲタツー」は、趣味の旅である。「役に立つ」とか「友達に自慢したい」といった実利的な理由が中心の旅ではない。純粹な好奇心や遊び心がその行動原理となる。「ヲタツーリスト」（以下「ヲタリスト」）のこだわりは、旅行前の準備、到着地でのふるまい、事後の行動にいたるまで徹底している。

例えば、小説を読んで、その舞台に行く場合に「ヲタツー」は見られる。

作品を読み込み、関連事項を丹念に調べ、出発する。到着地では、作品の登場人物が通った道や、見た風景などを巡り、雰囲気を楽しみ、写真に収める。わからないことがあつたら、郷土資料館に足を運んだり、地域の人に話を聞いたりして解決する。解決するまであきらめない、とにかくこだわる。その調査能力たるや、研究者も舌をまくほどである。

さらに、「ヲタリスト」は調べに調べた事柄を元に、ホームページやブログ、冊子まで作ってしまうことがある。それが話題になり、実際に地域を活性化させるケースもある。

好奇心から旅行者が自律的に旅をし、楽しみ、創造性を発揮し、地域に貢献する。地域が疲弊しているといわれる昨今、こだわりの旅「ヲタツー」が日本を元気にしてくれるかもしれない。

（658文字）

北海道大学大学院 国際広報メディア 観光学院 観光創造専攻修士二年 岡本健